

令和6年度 第2回 静岡市多文化共生協議会 議事録

- 1 日時 令和6年9月19日（木）午後7時から8時30分まで
- 2 場所 静岡市役所 静岡庁舎新館3階  
コミュニティ&ダイニングスペース「茶木魚」
- 3 出席者 静岡市多文化共生協議会委員 11名  
赤田陽子、磐村文乃、斉藤康博、金笑杰、角替弘規、中村直保、野田敏郎、ひだすむ、やました めりん、だ、やまもと ルシア エミコ、吉井博昭  
（欠席者：エフィ グステイ ワフユニ、照屋アンヘラ、花沢ウライヤ、）  
望月哲也観光交流文化局長、岩田智穂観光交流文化局次長、事務局
- 4 傍聴者 1名（長沼滋雄市議会議員）
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) 委員紹介
  - (3) 講義 「外国人留学生の現状と定住に向けた課題について」  
静岡県立大学 国際関係学部 高畑幸教授
  - (4) 議事 協議テーマの絞り込みについて
    - ア 事務局説明
    - イ 委員協議
  - (5) その他
    - ア 第3回会議
      - (ア) 日時 令和6年12月12日（木）19:00～20:30
      - (イ) 場所 静岡市役所静岡庁舎新館3階 コミュニティ&ダイニングスペース「茶木魚」
      - (ウ) 内容 委員協議の続き
    - イ 第4回会議
      - (ア) 日時 令和7年2月6日（木）19:00～20:30
      - (イ) 場所 静岡市役所静岡庁舎新館3階 コミュニティ&ダイニングスペース「茶木魚」
      - (ウ) 内容 市長への報告書類の確認
    - ウ 審議結果報告 令和7年3月予定
  - (6) 閉会

## 6 講義

### 高畑講師：

- ・留学生と一口に言っても、状態は様々で、来静の経緯、在籍校、専門分野によって全く異なる。今回は、日本の大学に学部から入って来る学生を例に話をしたい。
- ・本学では1学年180人中、私費留学生の募集人員は若干名となっており、年によって二桁いたり、一桁という状態。
- ・令和6年3月に卒業したのが9人で、そのうち日本で就職したのは5人、うち静岡県内は3人。日本の大学院に進学が1人、海外の大学院が1人、そして帰国して就職という方もいる。2023年度は12人卒業して、日本で就職が5人、うち県内が1人、日本の大学院進学が多かった年で4人いた。
- ・日本の会社に就職してから、女性差別がひどくて転職した留学生の話をよく聞く。
- ・今の4年生は入学したときからコロナだった世代。入学してすぐに、留学生同士は必然的に助け合うんだけど、日本人学生と楽しい雰囲気友達になるというのは、なかなかできなかった学年。気軽に相談できるような日本人学生の友達が作りづら環境で、ちょっとした言葉遣いや就活のときの服装など、日本人学生だったら気軽に情報交換できることが留学生には少し難しかった。今就活は対面で、そういう場に出ていくことに気後れしてしまうなど影響も少なからずあるのではないかな。
- ・ムスリムの学生の場合は、例えば服装とか食事とかで、企業側が理解を示してくれるかどうか大きな壁で、就活の場面で自分が否定されるようなことを言われて落ち込んだり不安になるケースがある。
- ・日本人と同様に、留学生の場合も就職後に転職するケースが増えている。日本で安定した生活をして、それで家族を作っていくということになれば、それは理想だと思うので、日本に入国してから何らかの形でサポートできるような場所、行政に加えて、例えば行政書士など外国人の事情をよく知っている人に長期的に関わってもらえるような環境があればよい。

### ヤマモト委員：

人文系以外の学生は、英語しか話さない人もいるので、定住となるとまた別の問題が発生するのではないのでしょうか。つまり、言葉の問題、どこで学ばよいかの次の課題になるのではないかと思います。

### 高畑講師：

大学の在学中の工学系の学生は、むしろ英語で読んだり書いたりするので、それほど日本語能力が必要ないということですね。企業側がどれほどの日本語能力を求めめるかで、就職して、いざ生活者になって、家族も一緒に暮らしますというときに、日本語

能力が生活者としてどのような困り感になるか、というのは、その職場とか、呼び寄せた家族の日本語支援とかを個別対応でやっていく必要があるのではないかと思います。

#### つのがえいいん 角替委員：

留学生に限らず、外国人全般の問題ですが、日本で働くに当たり、細かい日本語の言い回しが障壁になってます。外国人を受け入れる日本人側の問題として捉え直さないと、いつまでたっても変わらないのではないかと。日本語を学ぶ環境がなくて、学校では年齢が違っただけで受け入れてくれないし、日本語学校へ行こうとすれば結構な費用が掛かって、仕事をしながらではとても無理だし、どこで勉強するかといったら、テキストを買って家でやればという感じになるので、何かつめたいな感じます。そういうところをNPOや支援団体だけではなくて、社会全体としてやっていけないかと感じています。

#### たかはたこうし 高畑講師：

一つの例として、移民国のオーストラリアでは民間企業が州政府からの委託を受けて就職支援、つまりその人がオーストラリアに来る前にどんな仕事をしていて、その同じ仕事あるいはその資格を活かせる仕事をオーストラリアでやるためにはこの学校へ行ってくださいとか、この訓練を受けてくださいというコーディネートをして、そこで、能力をオーストラリアで必要なレベルまで上げてもらう作業をして就職させている。費用を掛けない方法でやるという選択肢もあると思いますが、それで効果を上げるのは、またちょっと別の工夫が必要ではないかと思います。

#### じんいじん 金委員：

今、スタートアップがキーワードになっていて、県内にそういう企業とか、チャレンジできる場所が増えていけば、県外で就職するしかなかった学生も県内で挑戦できる、そして好きな静岡に定住できるのではないかと思います。以前、県内の会社で働いていたときに、周りに現地採用のインドネシア人のエンジニアがいて、社内に礼拝室がなくてトイレの清掃用具が入っている小さな部屋で、順番待ちで礼拝していて、何か解決方法はないのかと考えさせられたことがありました。また、企業に限らず、いろいろな場所で早い時期からインターンシップに参加できる機会が増えれば、静岡での就職につながるのではないかと思います。

#### たかはたこうし 高畑講師：

留学生を受け入れ、その人たちを戦力にして行きたいと考える企業に、これは必ずやってくださいということを実践してもらって、例えば留学生に対してオープンな、

つまり留学生にフレンドリーな企業を何社か認定して、留学生の方からもわかるようにできたら、よりエントリーしやすいとか、そういったような働き掛けができるのではないかと思います。あくまでも、企業も留学生や卒業生も本当に就職は縁あつてのことなので、双方が求めることが合致して初めて就職できるので、こうすればこうなるといような簡単な答えはないと思います。

## 7 議事録

### (1) 委員紹介

#### 中村委員：

自治会連合会の会長を務めています。これまでも委員として参加してきました。今年度は今回が初めてとなります。よろしくお願いいたします。

### (2) 議事

#### 野田会長：

本年度は、「留学生が住みやすいまちづくり」をテーマに審議を行っています。今回の会議では、来年3月に予定している、市長への審議結果の報告に向けて、協議するテーマを絞り込んでいくとともに、今後のスケジュールについて、共通認識を持ちたいと思います。前回の会議で皆さんから出された意見や、有識者や留学生から直接聞き取った内容を資料にまとめてあります。また、静岡市多文化共生推進計画に掲載された市の取組についても資料を用意していますので、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局：

(資料説明)

#### 野田会長：

ただいまの事務局からの説明を踏まえて、具体的な話し合いのテーマとして、市の講座の情報提供、留学生からの意見にもありますが、日本文化を学ぶ講座に参加したいという意見もありました。そして、講義にもありましたが、就職支援の2点に絞って、皆さんから意見を伺いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。それでは、意見交換に移ります。

#### 肥田委員：

情報提供の分野に入るんじゃないかと思います。講義の中で、例えば離職が多いという話が出てきましたが、留学生に限らず、孤独というのが一つの要因になっているのではないかと思います。東京に行っても、また静岡に戻って来るといのは、

やはり土地勘なり、そこにつながりがあるということではないかと思ひます。行政としてどうやって孤独という問題に向き合つて行けるのかというのが一つの鍵になって来るのではないかと思ひます。今まで情報提供という、例えば相談窓口だとか、そういうのは確かにあるんですけども、そういうところに行って、情報を得てきて、その後は自分でやりなさいよということですよ。そこに行くのも知らなかったりだとか、行つても結局何にもならなかったということもあるわけですが、講義の中で出てきた伴走型の支援というのが望まれると思ひます。市民参加型の伴走型のサポートシステムというのが、相談窓口ではなくて、そういう形でのシステムを作ることが大事ではないかと思ひます。私達が開いている自主夜間教室もそのサポート型の一つの形ではないかと思ひます。先日、会社を退職したばかりの参加者から、退職金の申請書類の書き方について相談を受けました。その方にしてみれば、私達の教室に来ているのでサポートすることができる。そういったずっと付いて回るようなサポートシステムというのが、どうしても必要になってくるんじゃないか、そうしないと孤独はやっぱり解消できないのではないかと思ひます。

**の だ かいちょう**  
**野田会長：**

ちなみに、市の講座の情報提供というのは、現状ではどういったところから入手できるようになっていますか。例えば大学の中に掲示板があつたりするのですか。

**じんいじん**  
**金委員：**

がくせい かく せい かい ちやう  
学生課で提供しています。

**つのがへいじん**  
**角替委員：**

じやうほうていきやう  
情報提供をするときに、た げんごたいおう  
多言語対応ができてゐるのか、それに対する実績や評価が  
わかるようにしておくことが重要だと思ひます。じやうほうていきやう  
情報提供だけであとはご自由にど  
うぞというのでは、伴走にはならないと思ひます。

**やましたいじん**  
**山下委員：**

いろいろな情報が留学生のためにありますが、それが役に立つことがあります  
か。がいこくじんじやうみん じやうほう  
外国人住民に情報が届いていますか。りやうがくせい  
留学生だけではなく、がいこくじんじやうみんぜんたい  
外国人住民全体に  
必要だと思ひますので、どういふ形で届いているのかと思ひました。

**の だ かいちょう**  
**野田会長：**

りやうがくせい じやうほうていきやう  
留学生への情報提供と、それ以外の住民の方への情報提供は同じことなのでは

ないかということでしょうか。先ほど角替委員も発言されていましたが、パンフレットや掲示を作りましただけで情報提供したということにはならないということでしょうか。実際に私の学校でも、こういうイベントがありますよという掲示をただけでは留学生は誰も参加しますとは言わず、クラスの中で担任の先生が「こういうイベントあるけど参加する？」と聞くと、「はい、行きます」とみんなで手を挙げるということはよくあります。

#### 吉井委員：

いくつかまとめてきました。まず一つ目として、前回から話をしている留学生について、静岡市は定住率を問題にしていますが、全国的に政令市などと比較して、静岡市がそれだけ定着しないというか、留学生が静岡に住まないという問題が果たしてあるのかどうか、確認がまだ取れていないので、それが政令市の中ではまずまずなので、もっとこれを伸ばしましょうというのか、同じような政令市の中ではかなり低くて、全然伸びがないというのか、どんどん外へ出てしまい困った問題ですという前提で話が進んでいますが、本当にそうなのかというのがわからないと、この議論が本当にするべき議論なのか、もっと伸ばすべき議論をすればいいのか、遅れている部分をキャッチアップするような議論がいいのかということがわからないというのが1点です。それを前提として、いただいた質問については、一つは講座がどうでしょうかという話ですが、講座に限らず、今日の聞取りの内容には外国人の留学生がああして欲しい、こうして欲しいといろいろな希望が出てきてるんですが、なぜそれを希望しているのか、それをするによって自分たちがどうなるのかっていうのがわからないと、単なる希望に聞こえてしまうので、講座をしてどうなるのかがわからないと、この人たちの希望を聞いてあげれば、打算的ですけど、定住とか定着するようなものにつながるのかどうかわからないので、ただここに出してきた希望を、じゃこういう形で考えましょう、こういう希望が出てきたんだったらこういうふうに応えましょうというのは、果たしてそれがいいことなのかどうか。その人たちの希望がかなうという部分ではいいのかもしれないですが、今日この会議で話し合っている内容の目的として、講座情報をきちんと伝えれば、就職するんですかとか、定着するんですかということとは少しずれると思うので、私は希望を聞けばいいということではないような気がします。それから企業との話については、些細なことかもしれないですが、お祈りする部屋を用意するとか、建物に配慮するとかいろいろなことを気にするよりも、日本人を採用した方が費用も掛からないし、楽でいいという考えがあるとすると、そこに企業側のモチベーションが上がるような何かがないと、なかなかマッチングが難しいのではないかという気が個人的にはします。それから、自分が前回終わった後に職場に戻って職員に聞いたら、平成26年度に市役所の中で

プロジェクトチームを作って、今日と同じようなテーマで、市役所の中のプロジェクトチームで話し合いがされた経緯があるようです。その中では最終的に結論は出ませんでしたが、静岡市内にある大学と地元の企業などがマッチングしていない。文科系の学生が多い中で、文科系の人たちが就職できるような就職口が市内にたくさんあるのかということそうではないので、やむを得ず外に出てくという傾向があるのではないかとというのは、そのプロジェクトチームの途中までの結論としてあったようなので、その問題がいまだに続いていると思いました。いくら静岡市が好きで住民にいろいろ知り合いが増えて友達ができて、やむを得ずここには就職口がないので出ていきますってことになると、前回話し合った内容をもう少し解決できるかどうかかわからないです。そこを何とかしないと、相変わらずそこは問題として残ったままになるのではないかと思います。最後に、先日大雨が降ったときに災害多言語支援センターで、逃げてくださいという情報を多言語の機械翻訳で出しましたが、とても出しきれない。あれだけ次から次へと、大雨の情報や電車が止まりますという情報が次から次に出ると、4、5人で手分けしてやりましたが、一つの情報を直すだけでも10分位掛かるので、あれだけ次から次へと出てくると、直しきれない。いろいろな方から様々な言い方で日本語習得の話が出てくるので、多言語も大事ですが、やはり日本語を覚えてもらうところがないと、最後は行き詰まるのではないかと思います。日本語教育が就職先を増やすというよりも、遠回りかもしれませんが、日本語教育にどう力を入れていくかというのが、学校、民間のボランティアの人たちも含めて、いろいろな問題の鍵になるのではないかと思います。

#### 磐村委員：

留学生の力を借りながら生涯学習センターや生涯学習交流館で行う外国語講座ややさしい日本語講座を増やしてはどうでしょうか。現在、日本には多言語による教育の機会がほとんどないので、地域でやるしかないと思います。また、就職支援については、キャリアコンサルタントなど人を置いて、それぞれの環境に働き掛け、かつ留学生一人一人のキャリアをサポートしていけば、かなり解決できるのではないかと思います。

#### 中村委員：

情報発信については、市内の大学や短大、日本語学校が発信力を持っているので、そこを介するようにすれば、それほど難しい問題ではないと思います。それともう一つは、少しでも日本語を話せないと、これはどうしようもないところもあるので、日本語の難しさは、ニュアンスの違いでとても解釈が違って

くるところにあるので、今は世界的に英語が主流になっていることも考えて、日本語と英語ぐらいいは通訳できる体制が整っていればよいと思います。私が会長をしている学区の小学校には外国人の子どもが10人ほど通っています。また、クラブハウスで週2回、日本語指導をしていますので、こういうところと交流してはどうでしょうか。地域では、住民同士のつながりではないけど、顔を見たら話し掛けるしかないんですよ、嫌な人とは絶対に話しませんから。そのところをいかにして中に入れるような方法を地域としては作るしかないと思います。そこを外れて嫌だ嫌だとなると地域が困ってしまいます。地域の日本語学校にもできるだけ地域の行事に参加してもらっています。みこしを担いでもらったり、運動会に出てもらうようにしています。今日、市長と話した際に、市長から人口が減っているので留学生も大事にしてほしいと言われました。これからは、静岡に定住するということに力を入れていくと思います。相談の窓口については、静岡市国際交流協会や国際交流課を中心に対応していけばよいのではないかと思います。

#### 赤田委員：

皆さんのお話を聞きながら、また、講義を聞きながら、二つのことを自分なりに考えています。一つ目は、就職の前であるとか、転職のときであるとか、いろいろ切迫した状況になったときに、先ほど肥田委員もおっしゃったように、窓口はもちろんありますが、その窓口につながるころまでに大きなハードルがあるのではないかと思います、私も伴走型というのはとても大事だと思っています。先ほど企業の方の理解が必要というお話もあって、礼拝をトイレのところでなんて、もう聞いていて切ないなあというふうに思いましたが、やはり私達日本人の考え方、多様な文化に触れるとか多様な言語に触れるとか、多様な人材と関わることの素晴らしさ、アイデアが豊富になるとか、豊かになるということをも土台として、風土として持っていないと、企業でもそうはなっていないだろうと思いますし、そうすると私が今勤めているところでは、どういうことができるかということにつながっていくのですが、やはりその切迫した問題のころのサポートと、それからもっと前からとか、もっと地道な人としての考え方という部分と、二つあるのではないかと感じました。そして、その切迫した問題に伴走するためには、大変多くの人の数がいる。行政だけでは難しいと思ったときに、これは言語が違ふとか、文化が違ふ人だけではないのですが、共生という意識、隣近所付き合いとかつながりがある、「困っているの？じゃあ一緒に役所へ行ってみようか」とか、何かそういうところ、折角の静岡の温かさが広がっていくとよいのではないかと感じました。

#### 齊藤委員：

わたしからは就職支援についてお話したいとおもいます。ちょうど、つい先日の会議で日本商工会議所が今年の7月に行った調査で、「人手不足の状況及び多様な人材の活躍等に関する調査」が発表されたので、そのデータを少し紹介します。

人手不足の中で、シニア人材や女性の活躍等と同じく、外国人材という部分で尋ねた部分がありまして、こちらの調査は全国の中小企業2,392社に対して行われたものです。外国人材の受入ニーズというところで、外国人材を既に受け入れている企業は24.6%ということで2割超、それから今後受け入れる予定というところが4.5%、検討中が22.5%、これらを合わせると51.6%ということで、企業の半数以上が外国人材の受入に前向きな意向を示しているということでした。規模別に見ると、20人以下の企業では既に受け入れているのが13.3%にとどまっていますが、今後受け入れる予定が3.6%、検討中が22.6%ということで、規模の小さい企業にも一定の受入れが見られるという結果が出ています。業種別に見ると、外国人材を既に受け入れている企業の割合は、最も高いのが宿泊飲食業44.5%。それから製造業の36.7%ということで、4割前後で高いということです。それに今後受け入れる予定、検討中を合わせますと、人手不足が深刻な運輸業が48.2%、介護看護業が38.9%で、およそ4割から5割近くに達しています。もう1点聞いているのが、企業が政府や自治体などの公的機関に求めることで、外国人材の受入に当たり最も多いのが、受入制度に係る手続き書類の簡素化・迅速化、これが49.4%、受入に係るコスト負担の軽減が49.6%となっています。続いて、技能実習制度の見直しに伴う転籍制限の緩和が決定していることもあり、安易な転籍の防止34.4%、自治体等による日本語教育の拡充33.9%、受入体制整備への資金面での支援32.2%、という結果が出ています。それから今日の資料にもあるとおり、就職支援のところで受入側の意識啓発のための取組であるとか、地域における啓発の取組というところでは、現場のニーズが高まっており、その中でも業種別で特に高い業種があるので、こうした企業側の意識啓発とか文化作りを考えるに当たって、率の高い業種というのを少し念頭において施策を進めていただきたいと思います。

#### の だ かいちょう **野田会長：**

受入れに対して前向きな企業が多いということでしょうか。そうした前向きな企業と就職したいという留学生との間に、こういった作用があればいいのか、また講座を開いている地域の方が留学生にぜひ参加してもらいたいと思っている地域があり、またそこに参加したいと思っている留学生がいる。その間に入る、いわば仲介と言いましょうか、そういった役割が今後重要になってくるのではないかと思います。それからやはり日本語が、その仲介の役割を果たす大きなポイントになるのではないかと思います。今回はこれで終わりにしたいと思います。

いじょう  
以上

ぎじろくしょめい  
議事録署名人

しずおかしたぶん かきょうせいきょうぎかい かいちょう のだとしろう  
静岡市多文化共生協議会 会長 野田敏郎